

木更津市地域自立支援協議会
令和7年度第2回全体会議 会議録

開催日時 令和8年3月11日(水)～3月24日(火)
 開催方法 書面開催
 出席者(書面) 別紙「木更津市地域自立支援協議会委員名簿」のとおり

会議の概要

1. 議題(1) 各専門部会の令和7年度活動結果報告について

- ・異議なし 29名
- ・意見 3名

委員名	意見	事務局
河東委員	各委員会とも限られた時間と委員の人数での活動に敬意を表します。	今後とも限られた体制ですが、より一層充実した活動となるよう努めてまいります。
清川委員	こども部会 ライフサポートファイルについて 利用に向けての取り組みに関しては、10年以上前から話があり3ます(私が10年以上前だったと思いますが、こども部会に所属していた時からの課題です) ずっと課題としてあがっていますが、ニーズは本当にありますか？	保護者の方からは、一人で作成するのは難しいので一緒に作ってもらえる人がいたら作りたい」というニーズがあります。 保護者が孤立して作成を進めるのではなく、支援者側が その必要性を十分に理解したうえで、保護者とともに作成に携われる環境づくりが必要であると考えています。
大倉野委員	ふくしフェスタ2025の活動報告をみて、大盛況であったことがわかりました。イベントを開催する準備は大変だったかと思えます。	課題もありましたが、関係各位の協力の元、無事に実施することができました。

2. 報告(1) 第7次きさらづ障がい者プランアンケート結果について

- ・異議なし 28名
- ・意見 4名

委員名	意見	事務局
河東委員	障がい者差別解消法について理解されていないことが課題。本来は権利擁護部会が周知について担う問題。ここ数年は障がいについて子供達に理解してもらう事を重点に活動してきました。イベントをすることで委員の意識は高まり、結果も出やすく盛り上がることで達成感がある。法律の理解と差別解消のための行動を意識する事は	障がい者差別解消法の理解不足に関するご意見は、今後の取組の参考とさせていただきます。子ども達への理解促進やイベントでの意識向上の成果についても重要な取組として受け止めております。成果が見えにくい分野ではありますが、継続が大切であるとのこと指摘を共有し、今後の

	<p>持続が重要ですが、成果がみえにくい。目に見える結果がなくても地道に続けなければならない事と改めて思いました。</p> <p>以前は自分もまずはトップから、市長→議員→管理職→職員へと市役所の中で意識をしてもらえるようにしていきたいと声高に叫んでいました。具体的な案を出してと言われたきり、トーンダウンしてしまい反省。しかし、市役所職員の方々の対応は確実によくなっているように感じます。</p>	<p>活動に活かしてまいります</p> <p>また、市役所内での意識向上に向けたこれまでのご提案やご尽力に敬意を表すとともに、職員の対応が改善しているとの評価を頂き、大変心強く感じております。今後も行政内部の理解促進に向けた取組を継続し、より良い環境づくりに努めてまいります。</p>
井上委員	<p>防災に関して、世の中の的に特に重要テーマといえます。福祉避難所の更なる周知が必要と感じました。</p>	<p>防災に関するご意見を拝見し、福祉避難所の周知が重要であると共有いたしました。部会としても周知の在り方を検討し、取組を進めてまいります。</p>
小野委員	<p>障がい者を対象に行ったアンケートで、学校や職場、外出中に差別や嫌な思いをした経験があると回答した人が一定数いたとのことですが、一定数だと多いのか少ないのかが分かりにくいので、具体的な数(割合)を示していただきたいです。</p> <p>また、障害者差別解消法について、名前も内容も知らないと回答した人が6割以上とのことでした。差別が少ないからこの法律の存在を知らなくても支障ないのであればまだよいのですが、差別が多いのであれば、更なる広報、啓発活動が必要であると感じました。</p>	<p>具体的な数(割合)については、「学校・職場」が46.7%で最も高く、次いで「外出中」が45.3%となります。</p> <p>法律の名称や内容を知らない方が多いとの点は、今後の広報・啓発の重要性を改めて認識するものです。差別の有無にかかわらず、理解促進に向けた周知は必要であると考えており、今後の取組の検討に活かしてまいります。</p>
大倉野委員	<p>障がいのある方の避難所や避難方法について、平時の時に決めておかないといざという時に困ると思いますので、計画に盛り込む必要があると考えます。</p> <p>「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が必要な支援という回答が多いと記載がありました。計画に盛り込める項目の検討が必要かと思えます。</p>	<p>障がいのある方の避難所や避難方法について、平時からの整理が重要であるのご意見を共有いたしました。計画への反映について、今後の検討課題として受け止めております。</p> <p>また、「職場の上司や同僚の理解が必要な支援である」との回答が多かった点についても、重要な視点と認識しております。計画に盛り込むべき項目について、引き続き検討を進めてまいります。</p>

3. 報告(2) 地域生活拠点等整備事業の進捗状況について

- ・異議なし 31名
- ・意見 1名

委員名	意見	事務局
井上委員	登録事業所数も大分増えてきているようで何よりです。一方で私の事業所を含め、登録はしていても実績がない(現状を鑑み対応が難しい)ところもあり、その分特定の事業所様に負担が行ってしまっている事と思います。その点が改善ポイントの一つに感じました。	登録事業所数の増加について前向きに評価いただきありがとうございます。一方で、登録はあるものの対応が難しい事業所もあり、一部の事業所に負担が偏っているとのこと指摘は、重要な課題として受け止めております。今後は、負担の分散や対応体制の在り方について検討を進め、より持続可能な仕組みづくりに努めてまいります。

4. 報告(3) 日中サービス支援型共同生活援助(グループホーム)の評価について

- ・異議なし 28名
- ・意見 4名

委員名	意見	事務局
河東委員	十分な検討を重ね、より良い取り組みを提案していると思います。事業者側の受け止めは如何でしょうか。	事業者側の受け止めにつきましては、昨年度に実施した事業所において、指摘した事項を踏まえた環境改善が行われていることを確認しており、一定の理解と前向きな対応が得られているものと受け止めております。 今後も事業者の意見や状況を丁寧に伺いながら、より良い取組となるよう検討を重ねてまいります。
小野委員	居住支援部会員の方が施設を訪問し、要望、助言等されていますが、施設の様子がよく分かり、厳正に評価されていると感じました。	訪問を通じて施設の状況を把握し、要望や助言を行うことは、適切な支援につながる重要な取組と認識しております。今後も公平かつ丁寧な評価に努め、支援の質の向上に取り組んでまいります。
近藤委員	グループホーム(GH)ごとの特徴、様々な工夫を如実に感じる事ができました。 中には職員の約半数を技能実習生としてスリランカの方が担う施設もあり、言葉の壁もある中で技能習得に向けた指導を並行することのご苦	技能実習生が多く勤務する施設における指導やコミュニケーションのご苦労についても、重要な視点として受け止めております。また、利用者や近隣住民から技能実習生に対して不当な扱いが生じな

	<p>労を感じると共に、外国人に対し厳しい目が向けられる昨今の風潮を鑑み、施設(GH)利用者や近隣住民から技能実習生に対しそのようなことがないよう、十分に配慮されるよう願います。</p>	<p>いよう、十分な配慮が必要であるとのこと意見を共有し、今後の取組の検討に生かしてまいります。</p>
大倉野委員	<p>地域自立支援協議会でグループホームの評価を実施することにより、外部の目が入り、よりよいグループホーム運営につながると感じました。</p>	<p>外部の視点が運営の質向上につながるとのこと意見をいただき、ありがとうございます。今後も客観的な視点を生かし、より良いグループホーム運営の促進に努めてまいります。</p>

5. 報告(4) 君津地区四市精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム構築推進連絡会議について

- ・異議なし 31名
- ・意見 1名

委員名	意見	事務局
藤原委員	<p>精神障がいのみならず、他の分野でも四市で情報共有したり、支援体制強化につながる取り組みができると良いと常に考えています。</p>	<p>精神障がい分野に限らず、四市で情報共有や支援体制の強化につながる取組を進めるべきとのこと意見をいただき、ありがとうございます。広域的な連携は重要な視点であり、今後の取組の検討においても参考とさせていただきます。</p>

6. 報告(5) 吾妻公園文化芸術施設建設における障がい者等の利用に配慮した設備整備に関する要望書について

- ・異議なし 29名
- ・意見 3名

委員名	意見	事務局
河東委員	<p>聞きたいのは進捗状況ではなく、要望をきちんと反映して検討してもらえているかという点。遅れているのであれば検討し、設計に落とし込んでいただく時間は充分にあると解釈できる。</p>	<p>ご要望が計画に適切に反映されているかを重視すべきとのこと意見をいただき、重要な視点として共有いたしました。担当課からは、いただいた要望を業者へ伝えたくて、金額面も含め実現可能性を検討していると聞いております。また、市で対応できる部分に加え、道路から公園へのアプローチなど一部は県の所管となるため、全てを実施できるわけではないとの説明も受けております。こうした状況を踏まえつつ、反映可能な項目につ</p>

		いては引き続き検討を進めてまいります。
内海委員	全ての施設に障がいをもった人が利用しやすい設備や配慮がなされるようになるというが、予算面やデザイン性など、クリアしなくてはならない事柄が多いのでしょうね。	すべての施設が障がいのある方にとって利用しやすくなることは重要とのご意見を共有いたしました。一方で、設備整備には予算やデザイン面などの課題もあるため、可能な範囲で配慮の充実に努めてまいります。
古山委員	吾妻公園文化芸術施設に対する要望について市単独でできる項目は実現して頂きたいと思っています。担当部署では作業が遅れているため要望に対する回答も遅れているとのこと、今後を注視していきたいと思っています。	市が対応できる項目は実現してほしいとのご意見を共有しました。担当部署では作業の遅れにより回答が遅れているものの、回答文は返していただくと聞いております。今後の対応状況について、引き続き注視してまいります。

7. 報告(6) ヘルプマーク用啓発シールについて

- ・異議なし 29名
- ・意見 3名

委員名	意見	事務局
河東委員	作業が大変だと思います。デザインの募集については、告知期間を十分にとって、より多くの提案が挙がる事を願います。	作業へのご配慮と、デザイン募集に関するご意見をありがとうございます。告知期間については、より多くの提案が得られるよう、十分な期間を確保できるよう検討してまいります。
清川委員	木更津版という事でしたが、そのシールを貼ること木更津市民という事が伝わってしまう事への懸念があるという意見があったかと思いますが、そのあたりに関してはどのように精査されたのでしょうか。	木更津市民であることが分かってしまうとの懸念をご指摘いただきましたが、その点を踏まえて精査を行いました。その結果、市民であることが特定されるデザインではなく、どのような支援を必要としているかを具体的に示す内容とし、ヘルプマークと併せて周知していく方針としたものです。
藤原委員	市民アンケートの結果、既存のヘルプマークを活用すべきではとの意見が大半を占めていたように感じました。新たな予算を投じて作成されるシールの必要性について、もう1度市民に問う機会があると良いです。	新たなシールの必要性については、作成段階から広く市民の意見を取り入れることとし、小中学生の声も反映する方向で検討を進めております。